

## &lt; 研究成果の紹介 &gt;

## 日本ナシ新品種「福水」の特性と交配親和性

農業研究部園芸グループ

## 1. 成果の内容

## 1) 来歴

「福水」は三重県津市の藤井崇明氏が「筑水」の実生から選抜育成し、1999年2月1日に出願公表された日本ナシ新品種で、育成地（三重県久居市）において9月上中旬に成熟する赤ナシです。今回、一般特性とともに、主要品種との交配親和性、花粉量および有袋栽培における特性等を明らかにしましたので、その概要を紹介します。

## 2) 特性の概要

「福水」の原木および高接樹の特性調査の結果、樹姿はやや直立、樹勢は中、短果枝の着生は多、腋花芽の着生は中程度であります。成葉の形は卵から長尖卵円形で、とくに果叢葉は縦長で大きく、濃い葉色をしています。開花期は早く、「豊水」や「長十郎」とほぼ同時期であり、交配親和性は、主要品種とはありますが、「幸水」とは無いのが欠点のひとつです（図1）。純花粉量は、100花当たり0.125g（2000年）で、「筑水」より少ないものの、「豊水」と同程度で花粉量の多い品種です。果実は467g（原木、1996～2000年の5ヶ年平均、表1；以下同）で大きく、果形は円、果皮色は赤褐色で「豊水」や「長十郎」よりも赤味が強くです。また、熟期は9月上中旬で「豊水」とほぼ同時期であり、着果性は良く、豊産性であります。果実の品質の内、果実の硬さ(lbs)は5.4で、「豊水」よりやや硬く、「長十郎」よりは軟らかい果肉です。糖度(Brix)は12.7%で「豊水」よりも高く、糖の組成は果糖が多くて甘みが強く感じられ、酸度はpH4.65で、「豊水」と同程度であるので食味としては酸味をやや感じます。果肉色は白、香気は中程度で果汁はやや多く、食味は良好であります。さらに、芯腐れ、みつ症

および裂果もほとんどなく、果実の日持ち性は良いほうです。

なお、有袋栽培では、糖度が0.5%前後低下し、果点コルクの発達が悪く、また、果点間コルクの発達は、全体に広がるもののその厚さが薄くなります。病害虫に対する抵抗性は強く、葉害の発生はほとんどありません。

以上より、日本ナシ新品種「福水」は、大果で甘みが強く、酸味とのバランスならびに歯触りが良い食感で、食味は良好であります。また、着果性も良く豊産性であることから、「幸水」との親和性は低いものの、9月上中旬に熟する赤ナシとして有望であると思われる。

## 2. 技術の適用効果と適用範囲

本県での導入適地としては、既存産地であれば可能性が高いと思われますが、県下代表産地の農家圃場において、今後5ヶ年間にわたり「福水」の地域適応性の検討を開始したところです。

## 3. 普及・利用上の問題点

親和性が低いので、「幸水」の受粉樹としては不適當です。また、「福水」の受粉樹としては「豊水」等他のS因子グループの品種を利用下さい。

(前川哲男)

表1 「福水」の果実品質（1996～2000年、原木）

品種	袋の有無	果重 (g)	果形指数	果色* (C.C)	糖度 (BX,%)	硬度 (lbs)	pH
福水	無袋	467	0.84	4.2	12.7	5.4	4.65
豊水	無袋	398	0.85	3.8	12.3	4.4	4.61
福水	無袋	436	0.84	3.6	12.7	6.2	4.72
福水	有袋	421	0.83	2.7	12.2	6.2	4.7

\*カラーチャートは地色 下段の有無袋は2000年データ



写真 「福水」果実5態

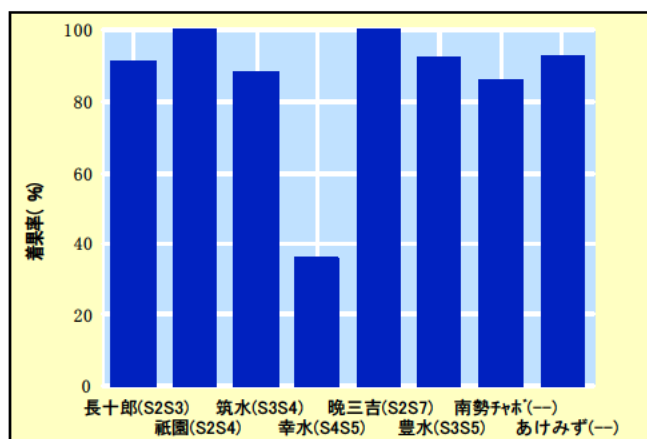


図1 「福水」と主要品種との交配親和性(2000年)